みやぎ国際ビジネス・観光拠点化プロジェクト

国際物流拠点化研究会　報告書

資料６

2012.8.29作成

1. 国際物流拠点化研究会の検討内容と今後

＜これまでの提言 ＞

A.　仙台空港の国際航空貨物のあるべき役割
　（1）ハブ空港化（国内・国際）
　（2）物流拠点整備（陸・海・空全てに対応した拠点）
　（3）首都圏空港のバックアップ機能（震災時のリスク分散）
　（4）民間空港外施設との連携

B.　仙台空港を利用する上で必要な条件
　（1）高次元サービスが可能な物流拠点の整備が必要
　（2）新たな航空貨物ネットワークの構築
　（3）荷主ニーズに沿った特区の整備

2. グローバル拠点空港としての仙台空港活用

（1）東北の物流拠点空港 ― 東北で製造（生産）される工業・農水産品のゲートウェイ空港としての活用
　事業例　　：被災地域で大規模植物工場を展開
　事業内容：市場ニーズの高い無農薬野菜を特定地域に輸出
　背景　　：被災地域での露地栽培は塩害等で当分のあいだ生産不能
　　植物工場での生産は無菌状態で生産されているため、安全性の面でも有利、定量・定質・定価格、大量生産が可能

本年9月に日通はクールジャパンの活動としてマルシェジャポン台湾を台北市で開催し、さんいちファームの野菜を輸出し販売を行う。

（2）国際ビジネス拠点空港 ― 水産加工品の集約拠点
　水産加工・輸出基地を仙台空港臨空エリアに設置し、気仙沼で取れた鮮魚を海外に販売していく。

（3）国際ビジネス拠点空港－特区制度を利用して自動車部品、精密機器部品、医療機器部品などの輸入集積拠点とする。
　＜貨物集荷のための方策＞
　（1）　保税地域、保税倉庫、保税工場の誘致
　（2）　助成金制度の創設
　（3）　空港の24時間化
　（4）　成田、羽田空港向けの早朝深夜便の創設
　（5）　新就航地の誘致
　（6）　他の国内外の特区と比較して競争力のある制度を創設

3. 国際貢献基地としての仙台空港

災害発生時のロジスティクスセンター機能を仙台空港臨空エリアに設置する。
過去のPKOの活動の拠点として仙台空港は滑走路、駐車場、周辺の高次物流拠点の機能を備えており、必需品の備蓄、災害支援物資の集積、物資の保管管理、また災害地からのオーダーに基づく物資の供給を、災害地域最寄の空港へ直送する。

＜国際貢献実績例＞

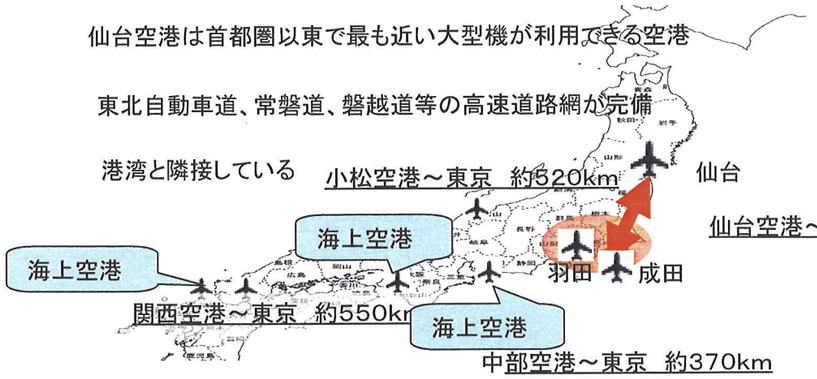
1996年	ゴラン高原PKO	アントノフ機他
2002年	東ティモールPKO	アントノフ機他
2009年	アフリカソマリア沖海賊対策	B747機他
2010年	ハイチ地震PKO	アントノフ機他
2010年	パキスタン洪水PKO	アントノフ機他
2012年	南スーダンPKO	アントノフ機他

＜大規模災害発生時のバックアップ拠点＞
　想定される災害－成田空港、羽田空港が被災し機能が低下
　　関西、中部空港が被災し成田、羽田空港で対応できなくなる。

仙台空港は首都圏以東で最も近い大型機が利用できる空港

東北自動車道、常磐道、磐越道等の高速道路網が完備

港湾と隣接している

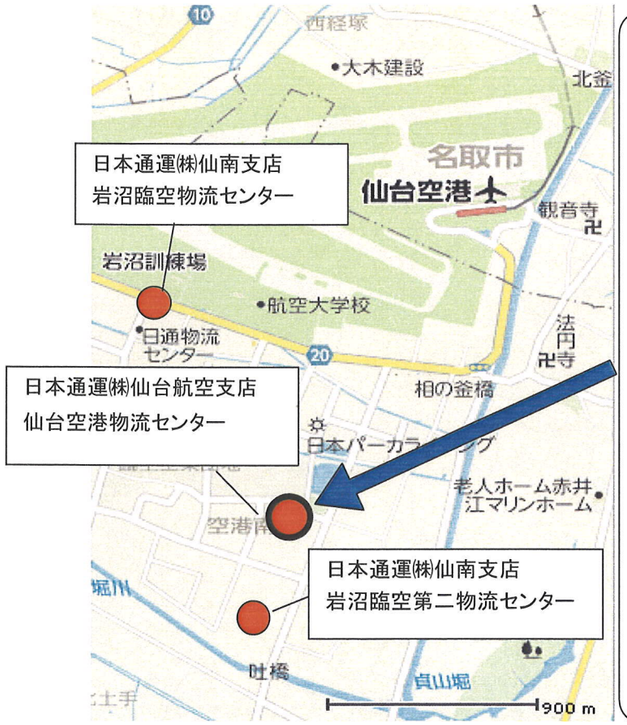


＊関西、中部空港は海上空港のため、液状化や津波のリスクがあると考えられる

＜国際物流拠点化のための施設例＞

仙台空港臨空地区に国際物流拠点を集積。
保管拠点（DC）、航空、海上、陸上輸送のマルチ輸送モードに対応した積み替え・仕分け拠点（TC機能）を提供。

仙台空港臨空地区の競争力向上
今後、**臨空地区への企業誘致と国際物流拠点化**が必要。
施策例）特区の活用、FTZの設定　等



航空貨物ターミナル、保管拠点

SACTの通関・利用運送機能代替地としても利用が可能
日本通運㈱仙台航空支店
仙台空港物流センター

宮城県岩沼市空港南4丁目1-8
鉄筋コンクリート造　地上3階建

倉庫	約 5,947㎡	（約1,800坪）
保税蔵置場	約 3,940㎡	（約1,190坪）
事務所	約 690㎡	（約210坪）
トラックバース	約 1,400㎡	（約430坪）
延べ床面積	約 11,977㎡	（約3,630坪）

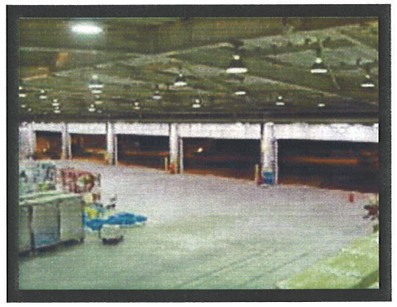
・1階は高床、低床ホームを兼備。
・高床ホームは国際海上コンテナにも対応。
・定温、冷凍、冷蔵倉庫、セキュリティ倉庫を設置
・建物全体を最新セキュリティシステムで警備。

＊資料　：　航空貨物取扱い施設の主たる機能例

JRコンテナバンニング

海上コンテナバンニング

シートパレット対応

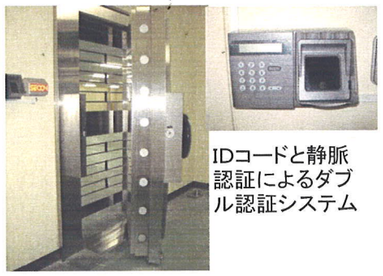

荷捌きスペース＆保税蔵置場

DC機能　ロケーション管理

空調機能付き保管倉庫、定温保管

監視モニター・各フロアセキュリティー

冷凍冷蔵庫保管


セキュリティ倉庫

IDコードと静脈認証によるダブル認証システム